

1 目的

今後の財政見通しや行財政運営上の課題について、市民と共有し、その理解を得ながら、人口減少・少子高齢化が進む中で、将来にわたって持続可能な市政運営の実現

2 推計結果

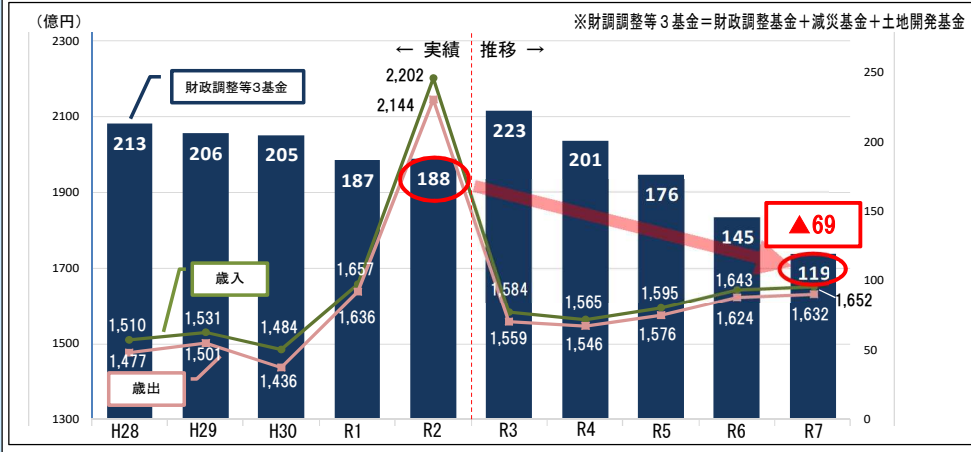
○歳出では、扶助費など近年増加傾向にある社会保障関係経費^{※1}やオリンピック施設をはじめとする公共施設の老朽化対策経費^{※2}が大幅に増加

○歳入では、市税が回復傾向。また、歳出に連動して補助金や市債発行が増加するものの、大幅な財源不足が発生する見込みとなるため、基金の取崩しで対応

〔※1 社会保障関係経費は、障害者(児)給付費などの扶助費や老年人口増加等の影響による介護保険特別会計への繰出金などが、近年、増加傾向であり、令和7年度は、令和2年度と比較して29億円増
※2 公共施設の老朽化対策については、年度間の不均衡を是正するため、一定規模の「施設長寿命化枠」を設け、財政負担の平準化を図るものの、令和7年度までの5年間で事業費は約450億円と膨大〕

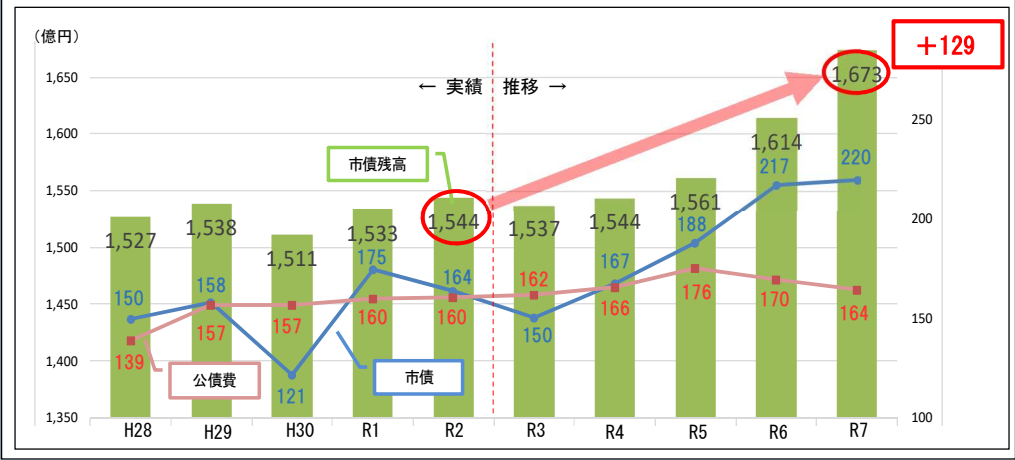
歳入・歳出と財政調整等3基金残高の推移

財政調整等3基金について、各年度の財源不足を補うため、その取り崩し額が増加し、令和7年度末は、令和2年度末と比較して約4割減少する見込み(令和3年度は前年度の実質収支の一部を積み立てたことにより一時的に増加)



市債残高の推移

市債残高について、公共施設の老朽化対策等に係る新規市債発行の増加に伴い、令和7年度末は、令和2年度末と比較して100億円以上増加する見込み



3 今後の課題

市内経済の活性化

○人口減少・少子高齢化が進む中で持続可能な財政運営を行うためには、地域経済を新型コロナウイルス感染症拡大以前に増して活性化させることが必要
ワクチン接種の加速と事業者支援等により、まずは市内経済を回復させ、善光寺御開帳を契機にまちの賑わいを創出し、さらに「長期戦略 2040」の推進によって経済基盤の底上げを行い、所得向上と税収確保につなげる

健康寿命の延伸

○本格化する人口減少・少子高齢化を見据え、高齢者の社会参加の促進、フレイル予防など介護予防の充実による健康寿命の延伸を図る施策により、社会保障関係経費の増加を抑制

市政運営の効率化

○公共施設の在り方の見直し

公共施設の老朽化対策については、予算に「施設長寿命化枠」を新たに設けることで財政負担の平準化を一定程度図れるが、オリンピック施設をはじめ数多くの施設を抱える本市は、これまで以上に財政状況が悪化することは避けられない
原則、新たな施設整備には着手せず、既存の施設については個々に長寿命化の必要性や整備内容を再検討し、併せて統廃合、民間譲渡の前倒しなどを加速

○行政のスリム化・効率化等

事業の「選択と集中」を一層強化させ、公共施設の在り方の見直しと並行して、行政DXの推進や組織の合理化、広域化など行政全体のスリム化・効率化を加速させるほか、都市機能の効率化を進める「スマートシティ」を実現